

第I部

信州の生物多様性の特徴、
現状と課題

- (1) 信州の生物多様性
- (2) 成り立ち (3) 危機



第II部

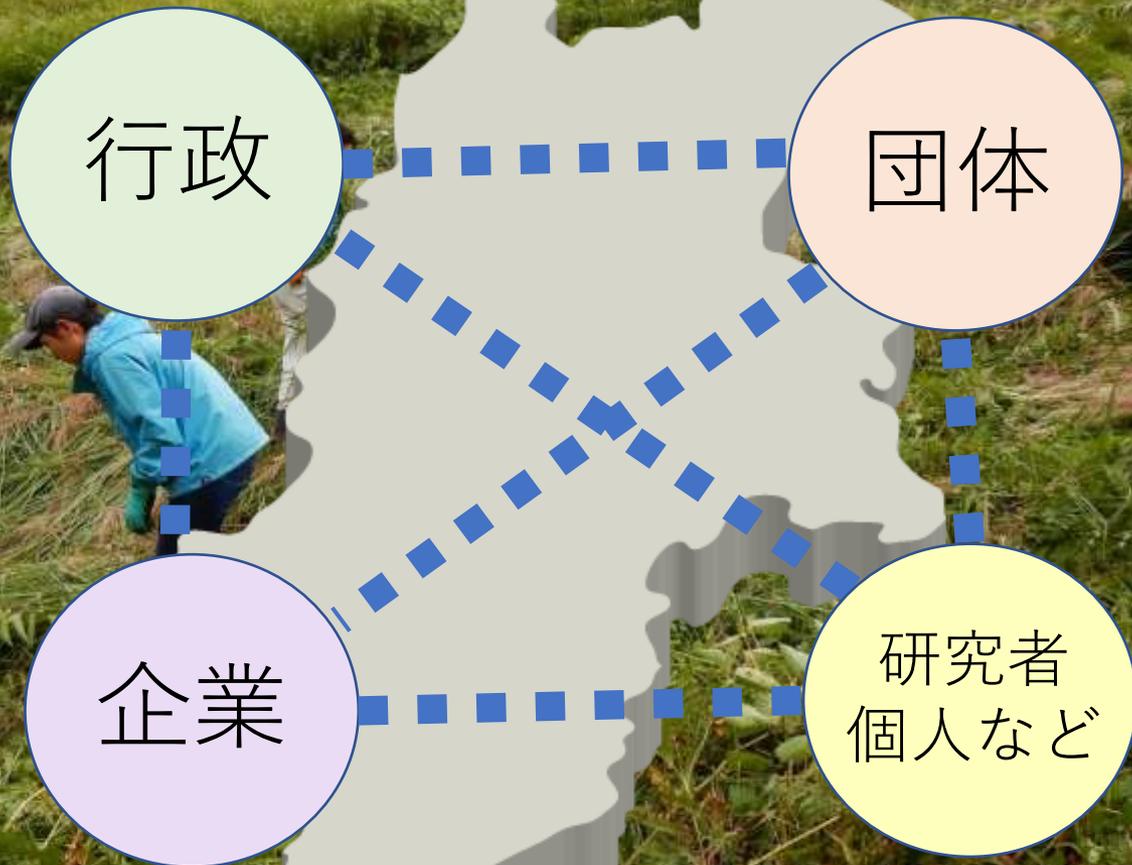
県内における保全の取組みの現状と課題

- (1) 市町村 (2) 保全団体
- (3) 活動事例

第III部

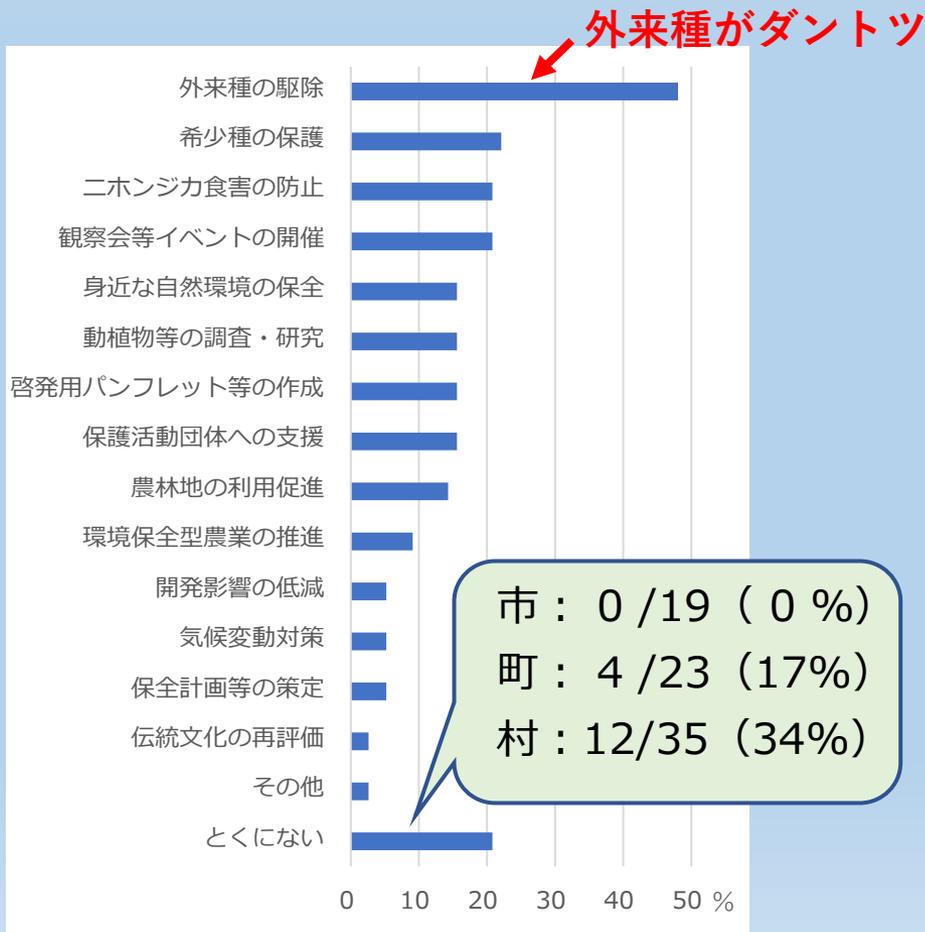
2030年に向けて

県内各地でさまざまな主体が活動



市町村の取り組みの現状

Q：生物多様性保全のために実施した事業



Q：生物多様性を保全する上で優先的に解決すべき課題



(2019年実施のアンケート³より)

市町村からの声

自然保護や生物多様性保全は大事なことだが、緊急度や優先度の兼ね合いから、なかなか手が回らないというのが正直なところ。

生物多様性保全は、役場内でも分野によって担当が分かれ（観光、教委、農林など）、包括的な施策を担当する部署がない。（〇〇村）

特定地域のみで生物多様性を保全することは困難であり、全県一体で取り組む必要がある（〇〇市）

人間以外の生物にとっては、人間が定めた境界など関係が無い。市町村単位でなく、広域的な対策が重要ではないか。（〇〇市）

市町村単位でなく、ブロック毎に地域戦略の策定をしてみてもいかがでしょうか。（〇〇村）

（アンケートの自由記述から抜粋）

役所内の体制の問題

生物多様性保全は優先度が低い！

包括的な担当部署がない？

- 自然公園は観光課
- 天然記念物は教育委員会
- 動物は耕地林務課？

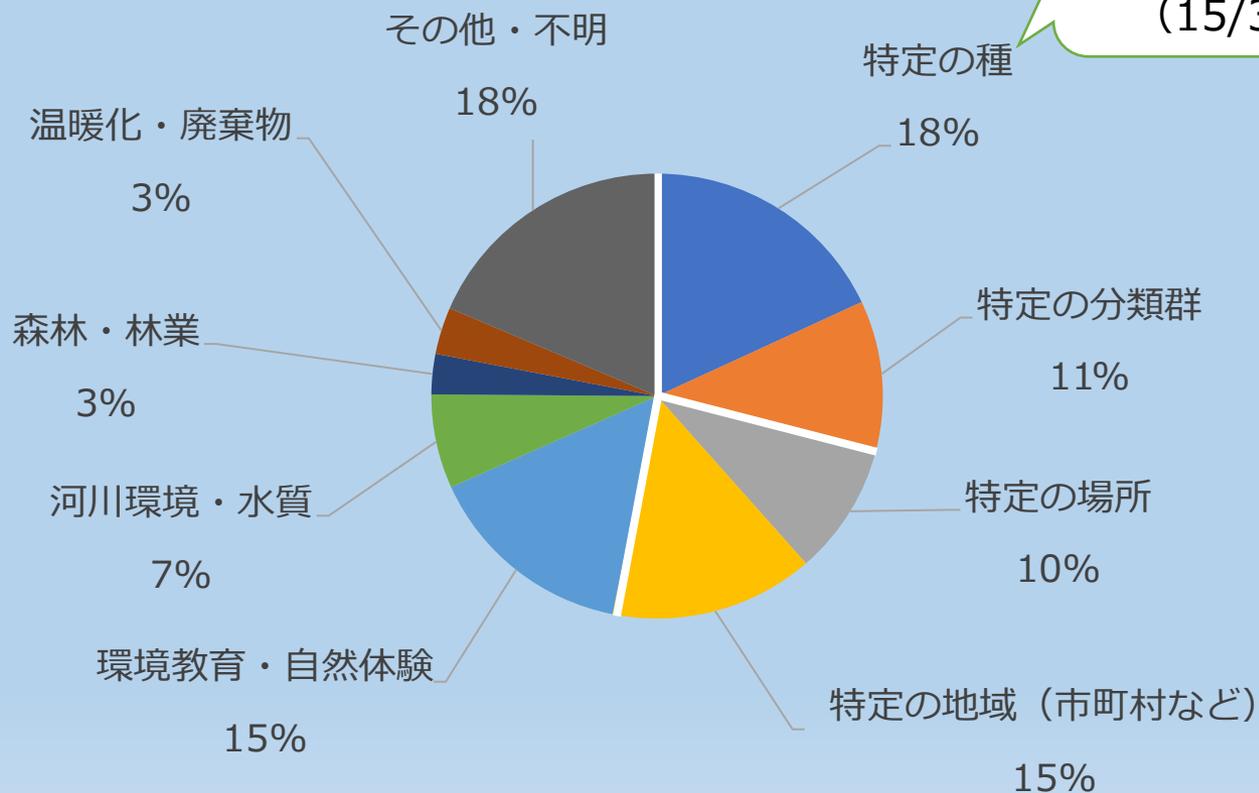
広域での対策の必要性

市町村では無理！ 全県一体で！

生きものに市町村界は関係ない！

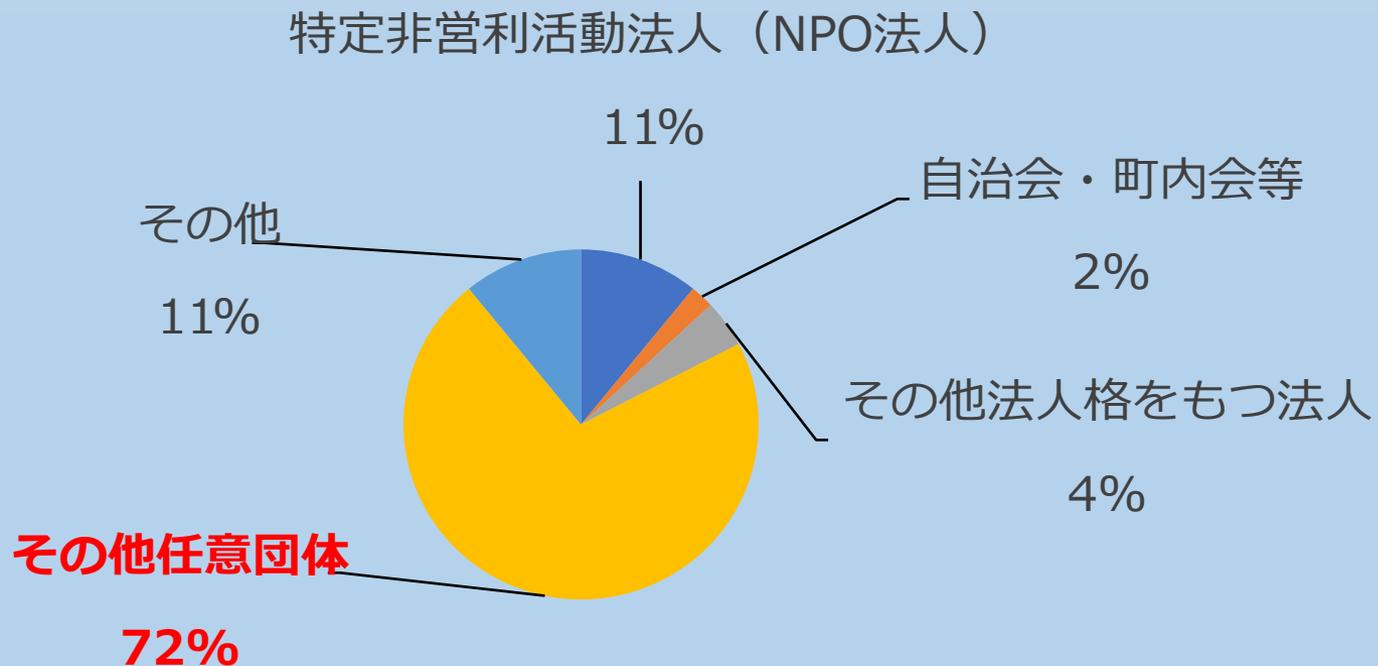
保全団体は何を対象にしている？

環境保全研究所情報誌「みどりのこえ」送付先等約200団体を
独断で分類してみた



保全団体の組織形態は？

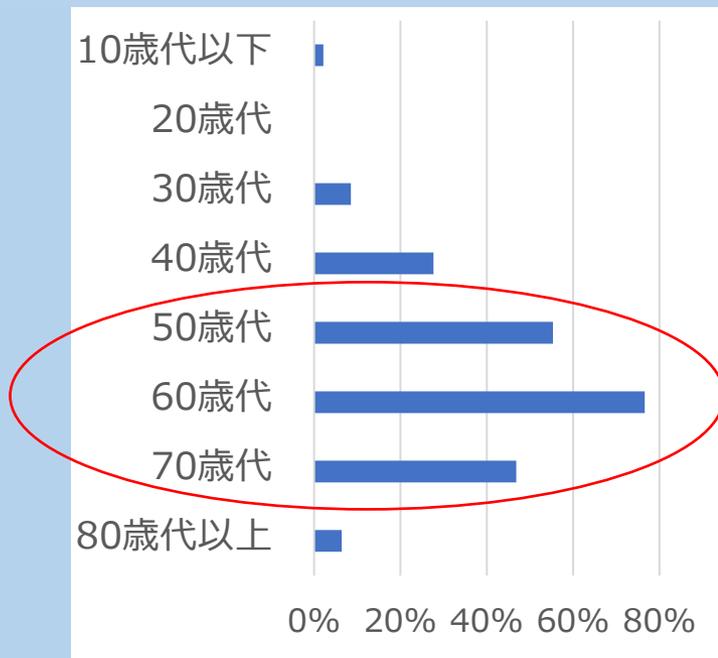
(2020年実施のアンケートへ結果から (回答47団体))



任意団体が中心
NPOなど法人格を持つ団体は少ない

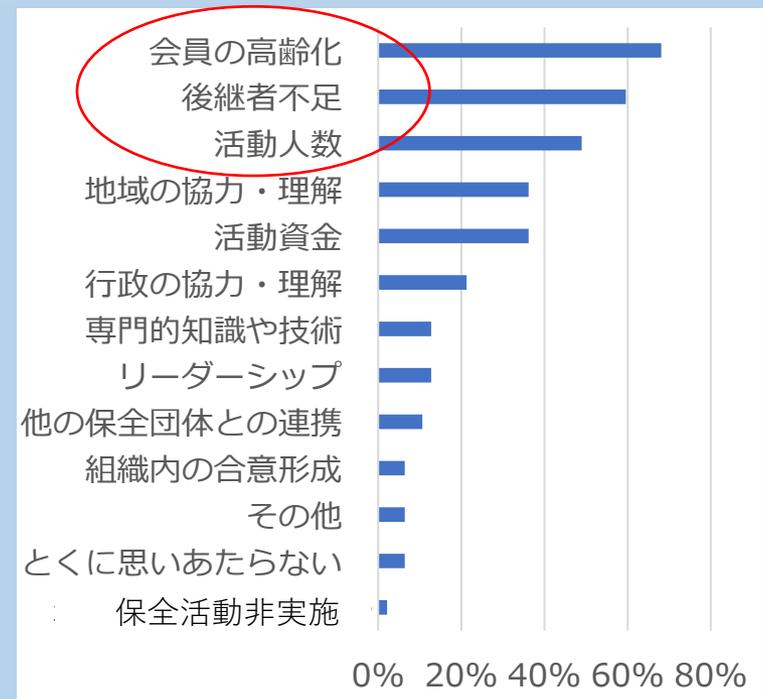
保全団体は高齢化が進む？

Q：会員が多い年齢層（3つまで）



60代を中心に50～70代が多い
(まだまだ元気な中高年が主力)

Q：活動を実施する上での課題



でも高齢化、人材不足は問題

保全団体からの声

たった1種類の保全に相当のエネルギーを使っている。他の希少種や、多様性を尊重した活動までには至っていない。

活動団体の連携よりも地域の協力をどのように得ていくかが課題。

自然観察会を実施しても参加者は中高年齢者が多く、将来の担い手としては期待できない。

学校教育の中で、生物多様性の保全の重要性を学べるよう、教育関係者（県教委）と連携が図れるように行政が動く必要がある。

小・中学校の校外学習授業に取り入れられることにより、ふるさとの思い出となり、環境保全の大切さも理解していただけたと思う。

(アンケートの自由記述から抜粋)

活動内容の固定化

特定の種の保全にエネルギーを集中
生物多様性まで考える余裕がない！

地域の協力と担い手の確保

地域の協力を得るのが難しい！

観察会の参加者は中高年ばかり！

学校教育との連携

子供への環境教育は重要だ！
でも学校との連携はどうすればいい？

第I部

信州の生物多様性の特徴、
現状と課題

- (1) 信州の生物多様性
- (2) 成り立ち (3) 危機



第II部

県内における保全の取組みの現状と課題

- (1) 市町村 (2) 保全団体
- (3) 活動事例

第III部

2030年に向けて

活動事例の紹介①

長野市浅川地区のゴマシジミ保護活動



写真提供：長野市霊園

- 種の保存法及び県希少種条例の指定種（2016年）
- かつては長野県全域で見られたが、今では数カ所でのみ確認（草原的環境の減少が要因）
- その1カ所が、長野市浅川地区の長野市霊園（草刈りによって草原的環境が維持される）
- 限られた生息地に捕獲圧が集中し、絶滅寸前になるも、法令での指定を機に地域の保護活動によって絶滅の危機を脱しつつある

浅川地区のゴマシジミ保護に 関わる人たち

土地の管理者

長野市霊園管理事務所
(長野市開発公社)



自治会

浅川地区住民自治協議会



行政



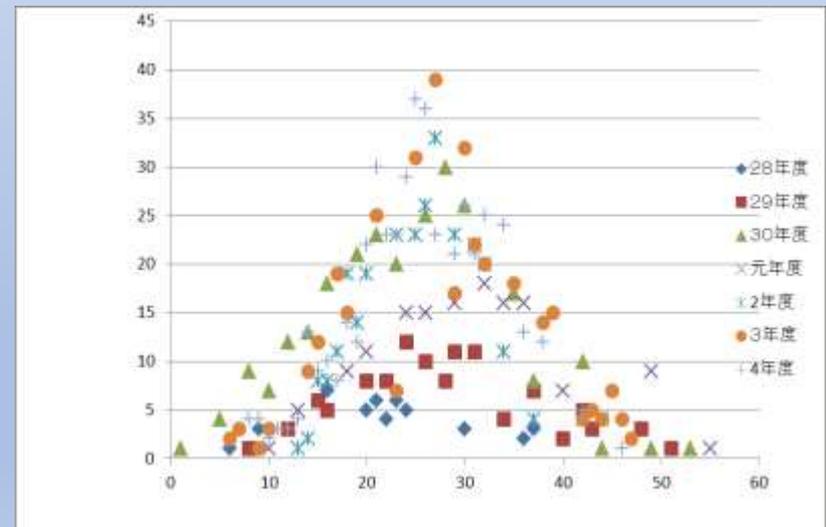
研究者・愛好家など





保護活動の内容

- ・ シーズン中の早朝パトロール
- ・ 食草（ワレモコウ）に配慮した草刈
- ・ 生息数のモニタリング
- ・ 監視カメラの設置
- ・ 食草の小学校での育成、移植など



日ごとの成虫確認数（平成28年～令和4年）

地域活動としての保護

- 自治会、土地管理者、外部研究者らが連携
- 地域の宝「ゴマシジミ」をみんなで守る
- 自治会が関わることによるプラス面
住民への啓発、学校教育との連携
行政への働きかけ、継続性など



一方で、

- 自治会の活動は基本的にボランティア
半強制的に動員？
- 活動のスタートは個人に依るところも
大きい（3者とも）
今後いかに継続させていくかに注目



活動事例の紹介②

開田高原の木曽馬文化と草原の再生活動

かつての開田高原

- ・ 在来馬の一種「木曽馬」の一大産地
- ・ 採草場がいたるところに広がり、春に火入れ（野焼き）、秋に干草作りが行われていた



現在の開田高原

- ・ 馬飼育の衰退とともに採草場はほとんど消滅（植林や放棄）
- ・ 開田高原の豊かな生物多様性に火入れと草刈りによる伝統的な草地管理が寄与していることが判明
- ・ 伝統的な採草場の復活を目指して、草刈りや二ゴ作りが試みられている



↑ 二ゴ：干し草を作るために刈った草を積み上げたもの

草地の再生活動

関わる人たち

- 草地再生団体（任意団体）
- 地域おこし協力隊
- 木曾馬関係者
- 外部研究者 など

活動内容

- 放棄された採草地で草刈と二ゴ作り、馬への給餌
- 火入れの復活（地区で実施）
- 伝統的な草地管理手法（伝統知）の継承
- 再生された草地の植生調査
- 勉強会



草地再生活動の課題と展望

課題

- 活動に対する地域の認識、理解
- 高齢者がもつ木曾馬やニゴに対する強い親近感と若者の活動意欲をどう繋げるか



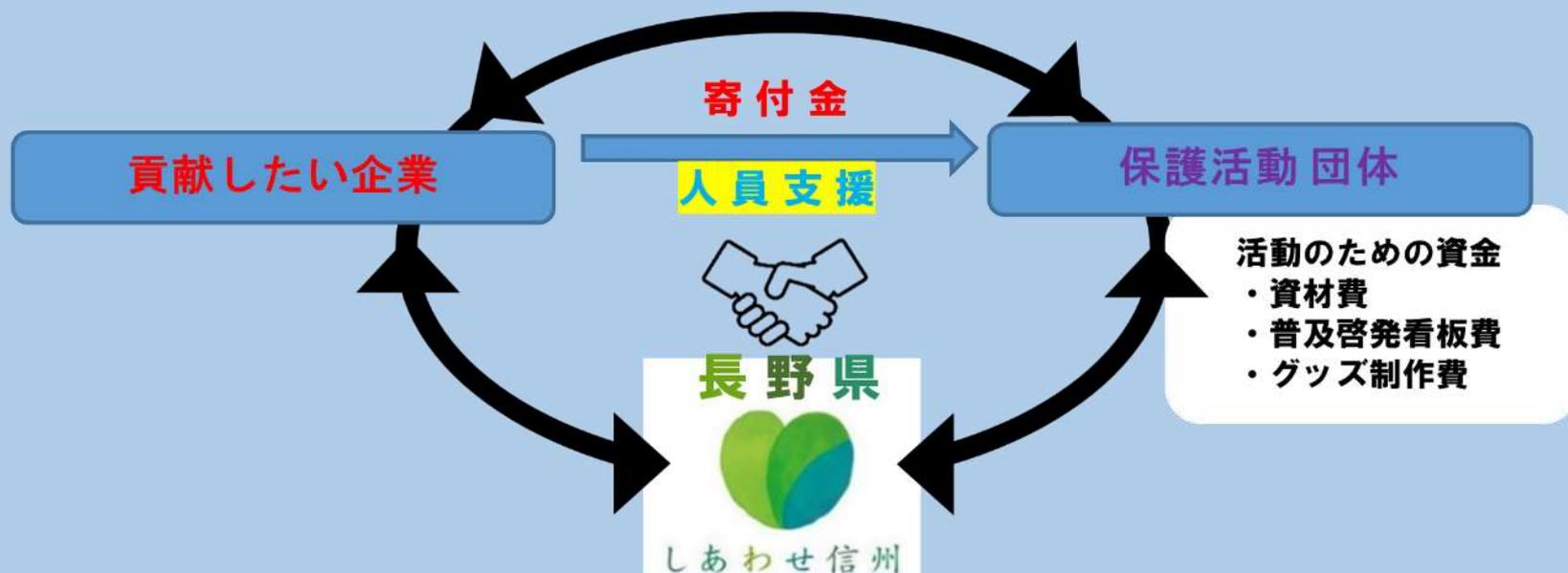
今後の展開の可能性

- 木曾馬とともにあった文化の継承（生物文化多様性の保全へ）
- 開田高原の自然だけでなく、それを形作ってきた人々の営みを地区内外へ発信（エコツーリズムなど持続可能な地域づくりへ）

活動事例の紹介③ 生物多様性保全パートナーシップ協定

社会貢献活動として保全団体を支援したい企業等と
支援を受けたい団体を長野県がマッチング

3者で協定を締結し、県はP・Rに努める



協定締結一覧 (パンフレットより)

2015年～

	参加企業・団体等	支援対象(支援・連携先)	協定内容等		参加企業・団体等	支援対象(支援・連携先)	協定内容等
1	ミヤマ株式会社 (長野市)	ミヤマシジミ研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・社員によるミヤマシジミ(チョウ)の保全活動(本社敷地内に保護区を整備) ・ミヤマシジミの保全活動に対する活動資金の支援 	11	株式会社マナテック(長野市)	アツモリソウ(上伊那農業高校 バイテク班)	<ul style="list-style-type: none"> ・人工授粉などアツモリソウ自生地の保全活動 ・生息域外での無菌培養増殖に必要な機材・活動資金の支援
2	ミヤマ株式会社 (長野市)	信州生物多様性ネット きすな	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性保全を社会に広く普及啓発するための活動資金の支援 	12	岡谷エコロータリークラブ(岡谷市)	霧ヶ峰草原再生協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・草原を中心とした霧ヶ峰の保全再生に対する活動資金の支援
3	中部森林管理局	長野県	<ul style="list-style-type: none"> ・ライチョウやイヌワシなど絶滅危惧種の保全活動の連携 	13	サッポロビール株式会社 関信越本部(埼玉県)	ライチョウの保護対策(長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・信州の環境保全をテーマとしたキャンペーン商品の発売 ・県が行うライチョウ保護対策の経費の一部を支援
4	信州生物多様性ネット きすな	生物多様性保全の普及啓発(長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性保全を社会に広く普及啓発するためのイベント等の連携実施 	14	日清食品ホールディングス株式会社(東京都) 安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター(小諸市)	絶滅危惧種の保護(小諸市)	<ul style="list-style-type: none"> ・チョウ等絶滅危惧種の保護活動の連携 ・市民を対象に生物多様性保全に関連したイベントを開催
5	楽天株式会社 (東京都)	長野イヌワシ研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・イヌワシの巣棚の復元・補修など営巣環境を整備する費用の支援 	15	株式会社ニチレイ 富士見町	富士見町アツモリソウ再生会議	<ul style="list-style-type: none"> ・富士見町のアツモリソウ保護活動の経費を支援
6	京急グループ (東京都・長野市)	生物多様性保全の普及啓発(長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の子供たちの環境学習活動に対する活動資金の支援 	16	NTN株式会社 長野製作所	ミヤマシジミ保護支援(長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・上伊那地域におけるミヤマシジミ保護活動の経費を支援
7	国立環境研究所	高山帯モニタリング(長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・高山帯モニタリングのためのセンサーカメラの連携設置 	17	東海旅客鉄道株式会社(愛知県)	南アルプス食害対策協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・南アルプス食害対策協議会が行う高山植物保護活動の経費を支援
8	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(東京都)	生物多様性保全の普及啓発(長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性保全を広く普及啓発するためのノウハウ提供 ・生物多様性保全イベント共催を通じたモデル事例づくり 	18	株式会社コシダテック(東京都) 株式会社KMC 北関東(群馬県)	ライチョウの保護対策(長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・県が行うライチョウ保護対策の経費を支援
9	帝京科学大学(東京都) 信州生物多様性ネット きすな	木曾町の生物多様性保全活動の推進(木曾町、長野県)	<ul style="list-style-type: none"> ・木曾町における生物多様性保全の研究と希少種の保全活動への参加 ・地元小中学校に対する環境学習の支援 				
10	保土谷アグロテック株式会社 大同商事株式会社	霧ヶ峰自然環境保全協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・草原を中心とした霧ヶ峰の保全再生に対する活動資金の支援 				

ミヤマ(株)  ミヤマシジミ研究会

- ・企業社員によるミヤマシジミの保全活動
- ・市民団体の保全活動に対する資金支援



・制度初、第一号の協定



・同種保護区を本社に整備



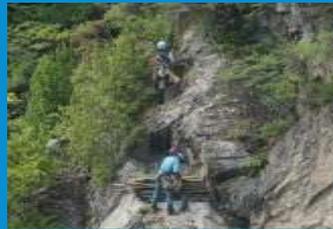
・社員への環境教育学習

楽天(株)  長野イヌワシ研究会

- ・資金支援によるイヌワシの巣棚復元プロジェクト
(実施主体:長野イヌワシ研究会)



・県外企業の第一号協定



・クライマーによる崖面の作業



・人工的に復元された巣棚

(株)マナテック  上伊那農業高校

- ・資金・機材支援によるアツモリソウの人工増殖活動
(実施主体:上伊那農業高校 バイテク班)



・企業と学校の初の協定



・野生個体の人工授粉作業



・種子から無菌培養で増殖

パートナーシップ協定制度の課題

企業の支援で保
全活動を促進

全国に先駆けた
先進的な仕組み

人と生きもの パートナーシップ推進事業

**信州の生きものを
未来へ引き継ぐために**

長野県は企業などの皆様と、信州の豊かな自然環境や
生きもの多様性を社会全体で守る取組を進めます。



長野県

- 企業の共感が得られるビジョンを団体が示しているか？
- 企業としては信頼できる相手と協定を結びたい（組織体制、継続性など）
- 団体は事務作業の負担に耐えられるか？（毎年の成果報告・寄付金請求など）

結局、それなりの組織でないと
難しい．．．？

第 III 部 2030年に向けて

- 
- (1) 国内外の最近の議論の動向
 - (2) 県戦略改定に向けた検討状況

今：2030年への転換点

2010年

生物多様性条約COP10

愛知目標

効果的かつ緊急な行動

2020年まで 20目標



2012年

生物多様性国家戦略2012-2020

生物多様性なごの県戦略

2020年

地球規模生物多様性概況第5版
(GB05)

20の愛知目標で達成ゼロ

パンデミック

2022年12月

生物多様性条約COP15

ポスト2020生物多様性枠組

生物多様性を回復軌道に

(Nature Positive)

生物多様性国家戦略改定

生物多様性なごの県戦略改定

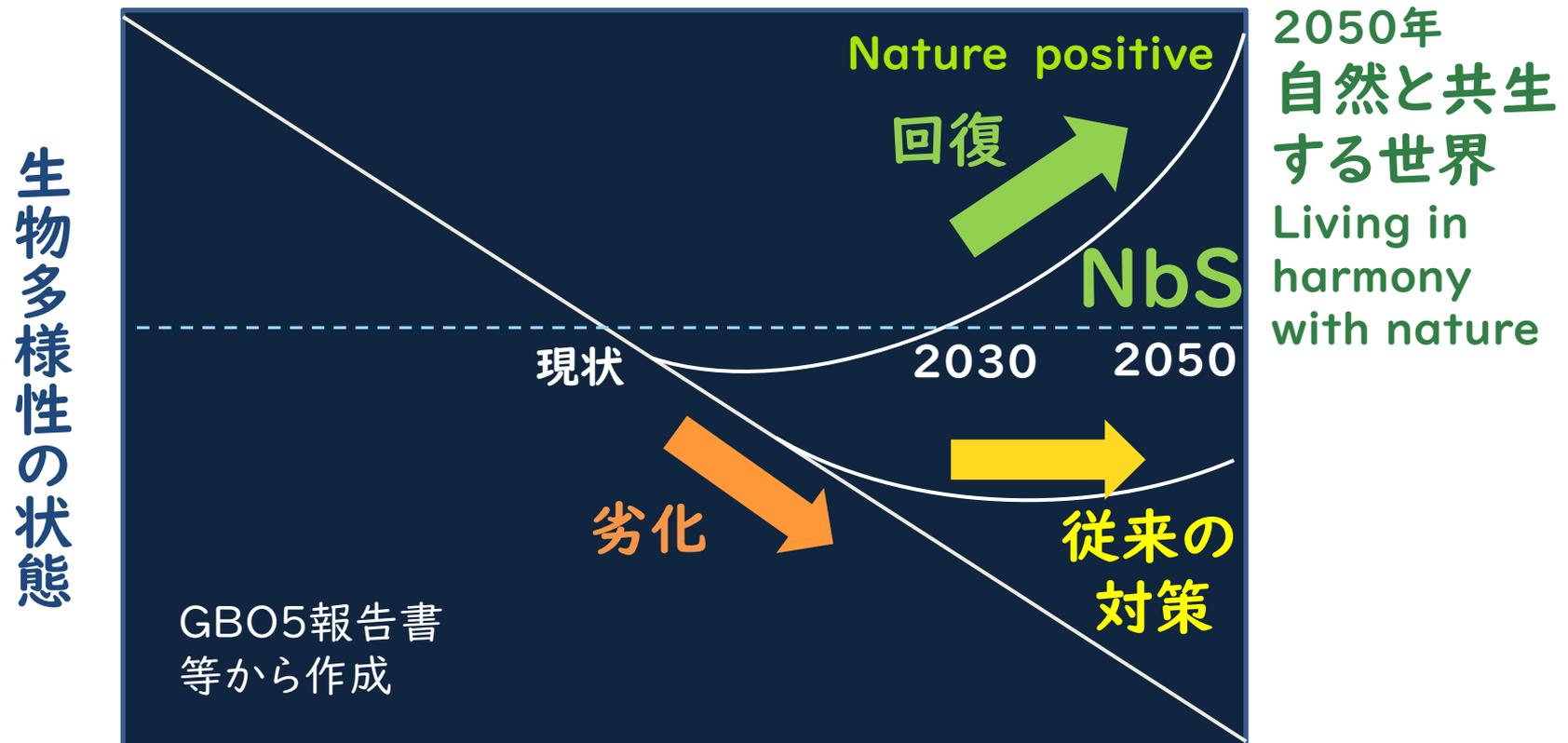
⇒ 第五次長野県環境基本計画

自然を生かした社会課題の解決

Nature-based Solutions: NbS

(自然を生かした地域づくり)

環境・農業・林業・観光・防災・教育・福祉・文化等



従来の自然保護対策に、NbSを大きく上乗せすることで
生物多様性を回復軌道に乗せ、自然との共生へ

自然を生かした社会課題の解決

Nature-based Solutions: **NbS**

自然を生かした防災・減災

グリーンインフラ：自然の多様な機能を活用し、持続可能な地域づくりにつなげる土地利用やインフラ整備

遊水地



自然を生かした社会課題の解決

Nature-based Solutions: NbS

自然を生かした持続可能な観光

スキー場のグリーンシーズン観光



白馬八方尾根



車山高原

防鹿柵で植生を保護

自然を生かした社会課題の解決

Nature-based Solutions: **NbS**

自然と文化を生かした地域活動

木曾馬文化と草原の再生

火入れを復活



特色のある地域文化

刈草を馬に



草刈りを学ぶ



“ニゴ”をつくる



草原の再生

伝統的知識の継承

写真：ニゴと草カッパの会提供

30by30 (サーティ・バイ・サーティ)

- 2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全
- 2021年G7サミットで約束
- 現状：陸域20.5% 海域13.3% (国立公園等の公的な保護区)
- 達成手段：**OECD** (Other Effective area-based Conservation Measures)
(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)
の認定 ⇒ 「自然共生サイト」(仮称)



里地里山
社寺林
企業の森
都市公園
……等

自然環境の保全・再生に取り組みたいと思っ
ている身近な方々、企業や市町村・県の担当者
にどんなアドバイスができそうでしょうか？



このあとの意見交換で……

第Ⅲ部 2030年に向けて

- 
- (1) 国内外の最近の議論の動向
 - (2) 長野県の検討状況と主な論点

＜生物多様性ながの県戦略＞



- 生物多様性基本法に基づいて2012年に策定
- 長野県の生物多様性の現状と、それに対する危機を整理
- 長野県の生物多様性のあるべき姿（中長期目標）と、県民や県政が今後10年間に行うミッション（短期目標）を示す



- 時の経過とともに自然や社会の状況が変化
- 改めて県内の現状を整理し、新たな戦略の方向性を議論

2022年度中に環境基本計画に包含させる形で改定
(現在、県環境審議会で審議中)

<現行の県戦略>

○短期の目標（2020年）

生物多様性の損失を止めるために、効果的で緊急な行動を実施します。

○行動計画（ミッション）

知る	生物多様性の価値を調べ共有する 生物多様性の状況や、その圧迫的要因、生物多様性が失われることの問題を科学的知見に基づき把握・分析に努めます。
守る	豊かなふるさとの自然を保全する 生物多様性を守り、その状況を改善します。
活かす	自然・生き物に感謝し、その恩恵を享受する 県土や自然資源の持続可能な利用を推進します。
広める	日本の屋根から発信する 全ての県民、全ての行政が生物多様性への影響を考慮し、判断して行動します。
つなぐ	次世代につなぐ仕組み・基盤を共創する 戦略の効果的実施のため、多様な主体が連携し、またその活動を強化します。

2030年頃の長野県の将来像（案）：抜粋

第五次長野県環境基本計画骨子（案）より
（令和4年度 第2回長野県環境審議会 2022.7.14）

主な論点

県内の動向
県版レッドリスト改訂
草原や里山の管理放棄への新しい対応
北アルプスへのシカによる植生被害防止
若年層への体験機会、学習機会の提供
連携拡大へのプラットフォーム形成（市民・企業・市町村）
国内外の動向
Nature based solutions（Nbs）の活用
再生可能エネルギーとのトレードオフ回避
新枠組による企業活動の活用
ポスト2020枠組、新国家戦略への参照
30by30、OECM認定に対応



- **様々な主体の連携・協働**による自然環境の保全・再生活動を通じて、**自然環境エリアが拡大**し、豊かな生態系、種の多様性、個性ある遺伝子からなる**本県ならではの生物多様性が保たれています**。
- 農地や草原、森林の適切な管理や野生鳥獣による被害防止とともに、生物多様性の保全に配慮した農林業が営まれていることにより、**人々の生活と調和した美しい景観が保たれています**。
- **自然の恵みを活かして気候変動対策、防災・減災、地域経済の活性化、健康などの多様な社会課題の解決**につなげる取組により、**人と自然が共生する持続可能な社会**が実現しています。
- **生物多様性や生態系が暮らし・社会・経済の基盤であることが認識され**、行政、団体・NPO、企業、個人などあらゆる主体が日常において**自然環境に配慮した行動**をしています。こうした活動の継続により、美しい景観が保たれ、自然の恵み、人とのふれあいを求めて県内外から多くの方が訪れています。